2022年11月6日

SUPER GT Green Project 2030

SUPER GTシリーズにおける環境対応ロードマップ
～2030年までにシリーズ全体のCO2排出量半減を目指して～

株式会社GTアソシエイション

SUPER GT Green Project 2030

プロジェクト骨子

1. シリーズ全体のカーボンニュートラル（CN）化を推進、2030年までにCO2排出量を半減

・参戦自動車メーカー、タイヤメーカー、エントラントならびにJAF、オーガナイザー等と歩調を合わせシリーズ全体のCN化を推進する。

・CO2排出量の算定・効果測定にあたっては、JAFカーボンニュートラル分科会と連携のうえ、モータースポーツ界におけるCO2排出量の算定方法を確立する。

2. 「いまできること」を全力で

・カーボンニュートラルフューエル（CNF）の導入、持ち込みタイヤセット数の削減、タイヤ・部品のロングライフ化、さらなる燃費向上技術の開発促進などのほか、モータースポーツファンの皆様にも協力を仰ぎ、サーキット内のゴミ削減やプラスチックごみの再利用促進等を目指す。

・サーキット周辺自治体との環境対応連携などを通じて地域社会と共生可能なモータースポーツイベントを実現する。

3. 「エキゾーストノート」をこれからも

・各種取り組みの進捗と結果を広く社会に周知し、モータースポーツファンのみならず幅広い層の方々のご理解を得ることで、可能な限り長期間にわたりICE車両/HEVによる「音があるレース」を世界各国にお届けできる環境づくりを推進する。

※ICE:インターナル・コンバッション・エンジン（内燃機関）

環境対応ロードマップ

1. 2023年～

・GT500/300両クラスへのCNF（バイオマス由来の非化石燃料）導入

・持ち込みタイヤセット数の削減（300kmレース ： Dry 5セット/Wet 6セット）

2. 2024年～2026年

・2024年GT500新型車両導入（各種燃費向上技術の開発促進）

・GT500/300両クラスのCNF（バイオマス由来の非化石燃料）継続使用

・持ち込みタイヤセット数のさらなる削減（300kmレース ： Dry4セット/Wet5セット）

3. 2027年～2030年

・2027年GT500新型車両導入（HEVなど電動化技術の採用を2022年～2023年内に検討）

・GT500/300両クラスへの国産e-fuel導入

4. その他、2030年までの継続的な取り組み

・サーキット内のゴミ削減・プラスチックごみ等の再利用促進

・サーキット周辺自治体との環境対応連携（森林保全活動の継続と新規取り組みの検討・実施）

・ e-fuelの国産化早期実現に向けた各種技術協力

・再生タイヤ導入に向けた具体的検討の推進

これらの取り組みを通じて2030年にシリーズ全体のCO_2排出量半減を目指す